

# 山川健次郎

山川家は、雲津藩諸士系譜『じよんづ』



青山墓地にある山川家墓地



下関・功山寺



初代 治大夫重宗、 二代 治大夫重仲、  
 三代 治大夫重増、 四代 治大夫増明、  
 五代 治大夫増敬、 六代 治大夫重往、  
 七代 治大夫重行、 八代 兵衛重英  
 九代 源治郎（重固尚江）、十代 大蔵（浩）  
 幕末では家老、大蔵の代で石高千石  
 三百石の家系だったが、八代重英の代から家  
 老職の家柄となります。

父尚江（なおえ）、母もん（唐衣・からころも）、兄弟は八人。

清之助（長男）、二葉（長女）、  
 大蔵（次男・浩）、三和（次女）、  
 操（三女）、健次郎（三男）、  
 常盤（四女）、咲子（五女・捨松）

健次郎は、嘉永七年（一八五四）閏七月十七日  
 （新暦九月九日）誕生。昭和六年（一九三一）  
 六月二十六日没。七十六歳。

**健次郎氏の略歴**  
 万延元年（一八六〇）山川重固が没。大蔵  
 （浩）が家督を継ぐ。

明治元年（一八六八）白虎隊士となるが十五  
 歳のため戦闘部隊から外れる。鶴ヶ城開城後、  
 猪苗代に謹慎。秋月悌次郎と長州藩奥平謙輔の  
 密約により越後へ脱走、二年五月、謙輔の書生  
 となります。

大蔵は、明治三年、筆頭家老にあたる大参事  
 となり斗南藩をけん引します。

明治四年（一八七二）斗南藩の再興後、薩摩  
 の黒田清隆の命により、開拓使養成のためアメ  
 リカへ国費留学生に選抜されて渡米。

明治八年（一八七五）イェール大学に合格。  
 物理学を専攻し、国費援助が途絶えた後も、米  
 国人の援助があり、学位を取得して帰国します。

明治九年（一八七六）東京開成学校（現東京

大・明治十九年に東京帝国大学）の教授補に三  
 十三歳でなり、ピーター・ベーダー（ピーテ  
 ル・ベダル）の助手となります。明治十二年には  
 日本人初の物理学教授となります。

明治二十一年（一八八八）磐梯山爆発。東京  
 大学初の理学博士号が授与。二十六年には理科  
 大学長となります。

明治三十四年（一九〇二）東京帝国大学総長  
 に四十八歳でなります。また東京学士会院会員  
 に任命されます。

明治三十七年（一九〇四）貴族院議員に五十  
 一歳で就任し、大正二年（一九一三）まで務め  
 ます。

明治三十九年（一九〇五）日露戦争後、政府  
 を非難した教授が処分を受けた戸水事件により、  
 東大総長を五十二歳で辞任します。

明治四十一年（一九〇七）安川財閥（安川敬  
 一郎・松本健次郎親子）の拠出により、現在の  
 九州工業大学の前身明治専門学校設立に協力し、  
 総裁となります。

明治四十四年（一九一〇）九州帝国大学の初代  
 総長となります。

大正二年（一九一三）再び東京帝国大学の総  
 長に六十歳で再びなります。十二月、男爵を賜  
 わります。

大正三年（一九一四）京都帝国大学の総長も  
 翌年まで兼任します。

大正九年（一九二〇）東京帝国大学の総長を  
 退任。

昭和六年（一九三二）六月二十六日、自宅で  
 胃潰瘍を患い眠りにつく。伝通院で葬儀があり、  
 東京帝国大学総長の長岡出身小野塚喜平次が弔  
 辞を述べます。墓は東京の青山墓地にあります。  
 （石田明夫）